



# 府中地区保護司会だより

第35号

発行責任者 府中地区保護司会  
会長 保坂昌代

日帰り研修 久里浜少年院にて



## 更生保護サポートセンターの設置にあたって

府中地区保護司会

会長 保坂昌代



保護司会の活動拠点としてのサポートセンターは、地域密着型の保護司活動を推進するための法務省の施策として平成二十年度から開始されました。現在全国で二四五か所に設置されています。平成二十六年度においては、政府は新たに一〇〇か所増設置する経費を計上しています。

府中市は、今年度から荒川区とともに設置の要請が東京保護観察所より三月末にありました。設置場所については数回にわたり本市への要望を出し、話し合いを継続しております。

府中地区保護司会は、更生保護活動において同じ目的を有する府中地区更生保護女性会と共に組織活動をする事になっております。

開設にあたっての基準は左記の通りです。

### 一、設置の趣旨

サポートセンターは、公的な建物等に専有の場所を確保し、企画調整保護司が駐在して、保護司会が組織的に保護司の処遇活動に対する支援や犯罪予防活動を行う拠点として、また地域における更生保護の拠点として機能させることにより、保護司会の任務を一層推進し、更生保護活動の充実強化を図ることを目的として設置するものである。

### 二、サポートセンターの機能

- (一) 地域の関係機関・団体との連携の推進
- (二) 地域に根ざした犯罪・非行予防活動の推進
- (三) 更生保護関係団体との連携の推進
- (四) 地域への更生保護活動に関する情報提供
- (五) 保護観察、生活環境の調整等の処遇活動に関する支援
- (六) 保護司会の運営
- (七) その他更生保護に関する活動の実施

### 三、サポートセンターの設置場所

- (一) サポートセンターは、地方公共団体の協力を得るなどして、地域における関係機関・団体及び地域住民との連携の促進に資する場所に設置する。
- (二) サポートセンターは、原則として、公的な建物等に常時専有できる事務室を確保し、面接室及び会議室等を備えるものとする。



### 更生保護のスタート地点

東京保護観察所長 荒木龍彦

四月から皆様のお力をお借りしながら更生保護の業務に当たることとなりました。よろしくお願いいたします。

私たちが進める更生保護の仕事は、起きてしまった犯罪を克服して二度と同じ悲劇が社会の中で起きないようにするという目標があります。では、今さらながら、そのことの出発点は、つまり加害者に何としても更生して同じ過ちを犯さないでほしいと願うスタート地点とは何でしょうか。

罪を犯した人が罪を犯すに至るまでに味わった経過や苦しみに関心と共感を持つことが思い浮かぶ方も多いかもしれません。けれども今確認したいのは、それよりもっと先に来るべきものです。

犯罪を乗り越えて「社会を明るくしようとする更生保護の活動の原点は、犯罪が生んだ不幸である「犯罪被害」の現実を目を向けて、だれも

がその加害者に二度と悲劇を生む犯罪を繰り返させまいと誓う心であると思います。その気持ちがあるからこそ、その目前の人の再犯を防ぐための方策を本心に真剣に考えることになるのです。

私たちが犯罪被害の現実を知り、それを語ることを通じて加害者に更生を促すことで、罪を犯した人は心を動かされ、その更生が確かになるのだと思います。

実際のところは、保護観察の中で対象者の被害者の方がその心情を保護観察所に伝えにこられるという例は、必ずしも多くありません。それでも、犯罪被害者の方々が講演会などの機会に勇気をもって声をあげることがありますから、更生保護に携わる私たちもそのような機会にしっかりとその声に耳を傾けることが大切なことであると思います。

そのようにしてよりよい更生保護の活動を進めてまいりましょう。



### ごあいさつ

東京保護観察所立川支部長 南元英夫

本年四月一日付けで東京保護観察所立川支部長を拝命しました。これまで、神戸、千葉、仙台、福島の方更生保護委員会、府中刑務所、法務総合研究所で勤務して参りました。

甚だ微力ではございますが、管内の更生保護事業発展のため全力を尽くす所存ですので、よろしく御支援・御鞭撻を賜りますようお願いいたします。

昨年、東京都保護司会連合会が、創立六十周年記念誌「東京における保護司活動」を発刊されました。同誌を拝読し、多摩地区管内の各保護司会が地域において創意工夫を重ね、自治体や関係機関とも連携しつつ、多様な活動を活発に展開されていることを知りました。また、立川支部長就任後、平成二十三年に多摩地区保護司会連絡協議会設立五十周年を記念して発刊された「多摩連五十年のあゆみ―多摩地区の更生保護―」を知り、驚きと大きな喜びを感じまし

た。そこには、多摩連結成前史として、昭和十四年司法保護事業法の成立に際し、三多摩及び八王子市で司法保護委員に任命された方々の氏名や住所、各保護区における観察事件取扱状況までが記されています。極めて貴重な資料であり、編纂に御苦労された編集委員の皆様我心から敬意と感謝を表したいと思えます。同誌には、各地区の歴史や組織・活動状況に加え、多くの元地区会長等から寄せられた思い出が掲載されています。昭和三十六年「地域社会と相携え、明るい多摩地区の建設に邁進、相互の結束を強化、研鑽に努める」ことを目的に多摩連が結成され、爾来、各地区の連携・交流を図ってこられた歴代保護司の皆様の熱意と矜持に触れ、自らの重責に改めて身が引き締まる思いがいたします。先達の思いを繋ぎつつ、時代の変化や社会のニーズに合った更生保護活動を保護司の皆様と共に進めていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



私の祖母は保護司でした。そういえば、子どものころ、夏休みに祖母の家に遊びに行っても、祖母はあまり家にいませんでした。今思えば、保護司会や更生保護女性会の活動に出かけていたのかもしれない。

父は、祖母のもとに近所でいちばんの悪ガキが訪ねてくることにとまどいを感じながら、祖母に促されてその悪ガキと一緒にキャッチボールをして遊んだそうです。また、祖父は、字を書くのが苦手な祖母に頼まれて、経過報告書を代筆していたそうです。(真似してはだめですよ！)

今は更地になつている祖父母宅を久しぶりに訪ねたら、社明の標語パネルがありました。お祖母ちゃん、私、保護観察官なんだよ…。



## ごあいさつ

東京保護観察所立川支部保護観察官

尾崎 文子

そうしたら、「研修、こびつと頑張れし！」と祖母の声聞こえてきたような気がしました。保護司の先生方といちばん顔を合わせることができて、観察官のことをいちばん知ってもらえる機会は定例研修だものね、わかつた頑張るよ、お祖母ちゃん！(ちなみに祖母は甲州人ではありません。今流行の朝の連ドラに流されてしまいました。)

一昔前、「愛と信頼の更生保護」と言っていたことを懐かしく思います。様々批判を受けて更生保護制度改革が始まった訳ですが、私自身は、保護司の先生方が、ただ心から保護観察対象者を案じ、時に優しく、時に厳しく語りかけることによつて、彼らの多くが「保護司は裏切ることはいけないよな」と考え、立ち直ってきたのだらうと思っています。

私は東京出身ではありませんが、府中に居を構えて十年以上になりました。府中地区担当官になった縁を大切にしたいと思います。ご指導どうぞよろしくお願いします。



## 親の躰と子どもの成長

府中警察署生活安全課

第一少年係長 泉 伸一

現在、犯罪の低年齢化、多種多様な進み少年犯罪も大人が犯す犯罪と変わらないものになりつつあり、社会問題となっています。

私が、非行を犯した少年や親と接して会話をしていく中で、子どもが非行を犯す原因はどこにあるのかと考えるときに行き着くところは「親の躰」と「親子の距離」にあるのではと思います。

親ならば誰しもが我が子がかわいいものです。しかし、そのかわいさにおぼれて厳しく鍛えることを怠ると大人として成長していく為の土台を脆くして軽いものにしてしまいます。

親が子に対して擦り寄り、子どもの気分に合わせてような無規則な個性の尊重は、親の善意とは程遠く、子どもの健全な成長、発達を妨げることとなります。

親が子供に正義を説き、人に対する思いやりを教え、家族のために働き、社会貢献する姿を見せることによつて、人の物を盗んだり、人を傷つけたりする大人にはならないでしょう。

親は、子どもに対して、やさしさと厳しさのバランスを持ち、親の躰を通して子どもの土台となるべき個性を育てていくことが大切だと思います。

親の躰と愛情で築いた土台は、子どもが成長する中で学び、経験することでも更に磨かれることとなります。

親は、子どもの成長とともに付かず離れず距離を取りながら、子が自ら考え、学ぶことを見守るのです。

距離を取り見守ることは、見放すことではなく、子どもが道に迷った時、道はずしそうになつた時には、直ぐに手を差し伸べ、引き戻せる距離を取りつつ、その都度適切な叱咤激励を与え、軌道修正を促しつつ子どもの巣立ちを迎えさせることが親の使命であると思います。



保護司



更生保護女性会の皆さん



推進副委員長（保坂保護司会会長）あいさつ

# るくする運動

立ち直りを支える地域のチカラ～



「社会を明るくする運動」  
に寄せて  
府中市福祉保健部長 川田 誠

更生保護関係者の皆様には、日ごろ、犯罪や非行のない明るい地域社会の実現のためにご尽力を賜り、また、熱心なご活動に本当に頭が下がる思いでございます。

さて、今年、福祉保健部長として、初めて「社会を明るくする運動」の街頭広報活動にかかわらせていただきました。

梅雨の晴れ間の中、多くの保護司の皆様や関係者の方が、けやき並木や府中駅周辺で、熱心に活動されており、とりわけ一中・二中・三中・十中・浅間中の若い皆さんの活躍は新鮮でした。のほり旗のもと、道行く人に「社会を明るくする運動です。よろしく願います。」と、はつらつとした元気な声で語りかけ、この運動のパンフレット等を配布していました。

また、別のグループは、年配の女性方に活動の趣旨を聞かれて、こちらからも、はきはきと明快に伝え、「あなたたち、偉いわね、頑張ってるね。」と応援されていました。このような中学生の活動の背景には、先輩保護司の皆様や同行された先生方のご指導があることはもちろんですが、こ



の光景は、未来を担う若者と年長の市民同士が、明るい社会の実現に向け、ことばを交わす貴重なひとときであったと思います。

この世代を超えた語らいの時間と場の共有こそが、市民相互の交流の輪を広げ、支えあいの力となり、まさに「社会を明るくする」原動力につながるものと感じました。

近年、個人主義や人間関係の希薄化などを背景に、社会的に不利な状況におかれた人々を周囲の人たちが気にかけない風潮が広がっていると言われています。このような状況のなか、更生保護関係者の皆様が社明運動を熱心に展開されることは、住民同士の連帯感の醸成と地域力の向上を促し、安全安心のまちづくりの実現に直結するものと考えます。

更生保護関係者の皆様におかれましては、今後も市民が犯罪や非行のないまちで、より安心して快適に暮らすことができますようますますのご活躍をお願いいたします。



テノール歌手 望月哲也氏



推進委員長  
(高野府中市市長)挨拶



中学生と

## 第64回

# 社会を明

～犯罪や非行を防止し

### 第六十四回社会を明るく する運動について

地域活動部 隆 ミワ子

社会を明るくする運動は、法務省が主催し、毎年七月を強調月間として、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動で、今年で六十四回目を迎えました。

府中市推進委員会では、七月一日午後四時より、府中駅フォーリス前・けやき並木周辺において、街頭広報活動を行いました。高野市長・府中地区保護司会・更生保護女性会・府中警察署・市内五校の中学生・他協賛団体等、多くの方が参加し、道行

く人たちに啓発用のチラシやポケットティッシュなどを配布しながら、本運動への協力を呼びかけました。笑顔で懸命に呼びかける中学生、その様子に安ど感とエールを送る先生たちの姿に、本運動がもたらす相乗効果を再認識致しました。今後、高校生等さらにひらかれた参加も期待しています。

七月十一日には、心配された台風もそれ、社会を明るくする運動推進大会を府中グリーンプラザ・けやきホールで開催いたしました。式典では、主催者、御来賓の方々からご挨拶を賜り、ご参加の皆様には、本運動への理解を深めて頂いたと思えます。式典後は、ふるさと府中で生まれた地元のテノール歌手・望月哲也氏のコンサートをお楽しみいただきました。歌劇「魔笛」「ファウスト」よりアリアを、その他多くの曲を熱唱。途中、トークが入り、出身校である府中市内の小・中・高時代のエピソードも披露され、青少年に夢と希望を与えて下さいました。最後に、会場の皆様と「ふるさと」を大合唱。参加者の方々より感動の言葉が寄せられました。成功裏に終えることができ、ご協力頂きました皆様に感謝申し上げます。



府中地区保護司会

副会長 高野 佳子

「危険ドラッグ」いわゆる(※脱法ドラッグ)の蔓延が深刻化しており、吸引者による事故や事件が相次ぎ社会問題となっています。麻薬や覚せい剤に似た作用があり、取り締まりを強化していますが、規制の網をすり抜けた新種がすぐに現れる状況です。

一九九〇年代後半から国内で出回り、若者を中心に乱用が急速に広まりました。脱法という違法でないから安全だと勘違いし、好奇心や軽い気持ちで手を出す人が多くいます。

府中地区保護司会では、「社会を明るくする運動」街頭広報活動に合わせ、STOP!! DRUGSのチラシを作成し、若者が危険ドラッグに手を染めないことを願い、配布をしました。なお、作成にあたり、府中市立府中第八中学校三年岡部菜摘さんにイラストを描いて頂きました。

※七月二十日、警視庁と厚生労働省は「脱法」という呼び方では危険性が伝わらず、名称を「危険ドラッグ」に改めました。

### 久里浜少年院参観記

研修部 奈良 元俊

本年六月五日、神奈川県横須賀市所在の久里浜少年院を参観する機会を得ました。当日の参加人員は三十八名。多くの方々にご参加いただきました。

新米の研修部員である小生、当日の役割活動は、小澤量さん指揮下の「出発時人数確認」係。実は小生、元矯正職員で、人数確認（矯正施設では「人頭点呼」と言っています。）はお手のもの：のはずだったのですが、寄る年波、霞目に加え、二十秒程度はもつとされる一時記憶機能が二秒ともたず、数えるたびに人数が違ふ。

かくもいい加減な人数確認でしたが、参加者の皆様の自覚とご協力の



久里浜少年院



お蔭で十二時四十分、予定時刻どおりの久里浜少年院到着となりました。

少年院では、鷺野院長から、近年の保護事件数や少年院送致件数の推移など我が国の少年非行の現状についての説明、久里浜在院者に関して、家庭状況、非行名、精神障害の状況などの特徴の説明等々熱心なご講義をいただきました。その後、戸高教育調査官のご案内で施設内部の見学もさせていただきました。

今回の研修で特に印象的だったのは院長講義のレジリエンス逆境を跳ね返す力の部分です。不幸にして非行や犯罪に陥った人たちを対象とする私達保護司にとって、人の立ち直りはいかにしてなるかということを考えさせてくれる良き日帰り研修であったと思います。皆様お疲れ様でした。

### 学校との連携委員会報告

#### きまりは何のために？

##### 第一小学校の

##### 道徳授業を参観して

学校との連携委員会

副委員長 杉浦 渉

##### 授業のプロフィール

・七月八日（火）午後二時三十分～  
・道徳「法やきまりを守って」（公德心・規則の尊重）・府中第一小六年二組児童三十一名・授業者小澤亮一先生・ゲストティーチャー杉浦保護司

##### 参観した保護司の感想から

保護司会から、保坂会長、谷合委員長はじめ十八名の保護司が参観しました。授業後、小島茂校長先生の同席も得て小澤先生を囲んで意見交換を行いました。

・子どもたちと先生の一体感が感じられ、しかも子どもたちの授業への集中力が素晴らしい。  
・男女間の不要なこだわりが全く感じられず、多様な個人の意見が率直に発言できていることがみごと。  
・先生がプリントを配ると子どもたちが「ありがとう」と言う。当たり前のこととはいえ、人間関係が育っていると感じました。すぐれた学級づ

くりが充実した授業を可能にしている。

##### 学校との連携に活かす

保護司の皆さんからは、小学校の授業参観は久しぶりで新鮮だったとの声が多く聞かれました。それだけ学校との連携では、中学校が念頭にありということだと思います。

しかし考えてみると、子どもたちの成長発達は小学校から中学校へと連続しているわけですから、小学校へのまなざしを持ち続けることが中学校の生徒理解を深めることになるのではないのでしょうか。子どもたちの規範意識がどのように形成されるのか、今回の授業参観が小学校との連携の在り方に一石を投じてくれました。この機会をくださった小島校長先生、小澤先生ありがとうございました。



授業風景

# 平成二十六年(春)受賞者

## 多摩地区保護司会連絡協議会

### 会長感謝状

保護司会

- 奈良崎 芳恵
- 小澤 秀敏
- 伊藤 仁
- 室 惇子
- 佐藤 政利
- 那須 史子
- 戸越 沙夜子
- 稲垣 三津子
- 黒沼 征子
- 遠田 秀子
- 廣野 ひとみ
- 平井 昭子

更生保護女性会

## 退任のあいさつ



大住 猛雄

五月の連休明けに都立浅間山公園を散策しました。ムサシノキスゲやホウチャク草が咲き乱れ、キンラン・ギンランが薫風に揺らいでいました。キスゲ保存会の皆様の熱心な

手入れがうかがわれました。

最近、親に見捨てられた子ども、刹那の快樂に溺れる若者、将来に希望の見だせない人々の非行や犯罪が目立ちますが、彼らを排除や監視することよりも彼らを支え、励まし、人びとが共生して、彼らもそこにぬくもりを感じて光を見だしていける街づくりが進められますようにと願っています。

十六年の保護司生活で知ったこと、それは、①対象者には希望が持てること、②府中地区保護司会にはぬくもりを感じることができたことです。ありがとうございました。

退任者

片井 陸 明

長い間ありがとうございました

## 部活動こぼれ話

広報部 大沢美保子

「府中地区保護司会だより」では、今回初めての企画として、4つの部の活動を順番に取材し、普段の活動にまつわる部員の声等を紹介することにしました。

## 《地域活動部》

「主な行事が暑い時と寒い時に集中していますが、あまり身構えないでやれます。色々な団体との係りもあるので、チームワークが大事なな。」  
「夏の杜明の時、のほり旗をずっと支えていたり、冬の落ち葉はきでは、落ち葉を運ぶリアカーを引っぱるのに意外に力がいらいます。体力も必要ですね。」

## 《総務部》

「総会、新年会等に向けて準備や打合せに気を使います。進行に落ち度があつてはいけないので。」  
「司会の原稿は、一応頭に入れてありますが、来賓の欠席や急な時の対処で焦ることもありますね。」

## 《総務・地活部をまとめて》

「7月の杜明推進大会では、講師による講演会とコンサートを隔年でやるようになってから、企画も随分やりやすくなりました。ただ、予算の関係で、お願いできなかつたり、折角まつていてもキャンセルとかのハプニングもあり大変です。どちらの部も、全体を見渡す鳥瞰的な目が大切ですね。」



## 関東医療少年院

### コーラス交歓会

広報部 伊藤 仁

六月二十六日、とても暑い中、更生保護女性会、保護司、篤志面接委員、後援会の方々のご出席のもと開会されました。オペラ歌手黒田氏、奥様はピアノ演奏、バイオリニスト早稲田氏の演奏と、広いとはいえない体育館がコンサートホールへ変わりました。黒田氏の人柄、話術力など人を引き付けることがとても上手で、あつという間の二時間でした。

普段より院生とは、面接や音楽を通じて、コミュニケーションを取り指導されているだけに能力や特性を理解し、適切な課題を披露していただきました。院生一人ひとりの個人差がある中、歌と踊りで楽しませてくれました。最後は全員合唱で幕が閉じ、貴重な経験をすることが出来ました。

## 【その他の参加行事・研修】

- 五月二十八日 関東医療少年院 学習発表会
- 六月十一日 都福祉保健局・小児総合医療センターセミナー
- 六月二十六日 保護司特別研修

### 府中往来

## ふるさと府中歴史再発見（十四）

府中市ふるさと文化財課 野田 憲一郎

昨年の十一月から府中駅南口再開発の大規模な発掘調査が、府中駅南口第一地区市街地再開発組合の協力により行われました。今回は、その発掘成果をお伝えします。

府中駅南口再開発事業に伴う発掘調査は、これまでに第二地区（現フォーリス・伊勢丹）に始まり、第三地区（現くるる）と続き、合計約二万二千平方メートルに及ぶ広範囲の調査が行われてきました。この近辺は、主に奈良・平安時代の竪穴建物跡をはじめ武蔵国府に関連した古代の遺構と遺物が数多く出土している地域で、

第二地区と第三地区の調査で既に三百八棟に及ぶ竪穴建物跡が発見されています。今回の調査でもこれまで百四十七棟の竪穴建物跡が発見されており、市内の他地域に比べ竪穴建物跡が密集する特徴が窺えます。これらの竪穴建物跡からは、土師器や須恵器といった土器類の他に、鉄鎌などの農具や

鍛冶工房で使われる轆の羽口（送風管）など農業や手工業生産に関わる道具類も出土しています。その他、硯や刀小（木簡の文字を削り消すための小刀）といった公文書を扱う役人が使う文房具や、役人が身につける腰帯の飾り金具なども出土していることから、この付近は、国衙の造営や運営に携わる人々が集まり住むとともに、役人の住まいや、国衙の外部に設置された役所の一部が近くに存在していた可能性も考えられます。

また、今回の調査では、武蔵国衙から真北に延びる道路跡が発見されています。この南北道路跡は、国府と国分寺を結ぶ主要道路と考えられており、東側の第三地区と今回の第一地区では、この道路沿いに掘立柱建物跡が建ち並んでいる様子が見受けられました。武蔵国府のマチには、都城のような碁盤の目状の地割は存在しませんが、このように道路により主要な建物を計画的に配置し

ていたことがわかる資料となりました。

現在は、発掘調査で出土した遺物の整理作業を進めています。土のついた土器や瓦などを洗浄すると、文字資料など、新たな発見に会うことがあります。先日、竪穴建物跡から出土した瓦に、「武蔵国□□」とヘラ状の工具で書かれた文字が見つかりました。□□の部分には文字が切れており判読が難しいですが、「武蔵国」と国名を記した遺物は市内で初の発見で、非常に貴重な資料といえます。現地の発掘調査に引き続き、今後も新たな発見が期待されます。



### 編集後記

向日葵の 一意専心 凛と咲き ゆきえ



向日葵は更生保護の花。

暑さに立ち向かう鮮やかな黄色が、元気に力強さを感じさせます。第六十四回 社会を明るくする運動。制服から覗かせる爽やかな笑顔。中学生のみなさんの差し出すリーフレットやティッシュ。彼らの想いを、どれだけの方がしっかり受け止めてくれたでしょうか？

六十四年を経てもなお、更生保護への理解には、未だ道半ばの感が残るところですが、「一意専心」伝え続け理解を求めて参りましょう。第三十五号発刊に当たりご寄稿下さいました皆様にご心より感謝を申し上げます。広報部の一員として、お寄せ頂いた原稿から紙面へと、充実した仕上がりを楽しみに、その行程に関わらせて頂く光栄な作業と感じております。皆様、ご協力大変有り難うございました。伊藤ゆきえ

### 広報部

- 部長 加藤 茂 木村 講和
- 副部長 堺 美佐子 室 惇子
- 書記 大沢美保子 伊藤 仁
- 会計 田中 節子 伊藤ゆきえ
- 部員 小澤 宏 杉浦 渉
- 赤塚 正担 中込八重子

題字は高野市長の揮毫によるものです